



# セルフチェックリスト

自分の保育の中で下記のようなかわりがないか、確認してみましょう。

|                            | 良くないと考えられるかわり   | チェック欄   | より良いかわりへのポイント   |
|----------------------------|---|---|---|
| 子ども一人ひとりの人格を尊重しないかわり       | 苦手なことを渋っている子に、「早くやって。できないなら後ろに行って。」と言ったり、他者と比較したりなど、否定的な言葉がけをする。  | <input type="checkbox"/> していない<br><input type="checkbox"/> している (したことがある) | 保育者が子どもの頑張りという気持ちを置き去りにした発言をすると、子どもは自分を否定されていると感じます。自己肯定感を育む言葉がけをしましょう。                           |
| 物事を強要するようなかわり・脅迫的な言葉がけ     | 寝ずに話をしている子どもに対して、外で寝るように言ったり、布団を友だちの布団と離して敷いたりする。   | <input type="checkbox"/> していない<br><input type="checkbox"/> している (したことがある) | 午睡中に話をすることが他の子どもに迷惑であること、身体を休めることの大切さを伝え、子どもが納得して行動できるよう言葉がけをしましょう。                               |
| 罰を与える・乱暴なかわり               | 子どもの人数チェックをする際、子どもの頭を手ではたくようにして人数を数える。  | <input type="checkbox"/> していない<br><input type="checkbox"/> している (したことがある) | 子どもによっては、頭を叩かれたと感じることもあります。人数をチェックする際も、一人ひとりの顔を見ながら、丁寧にしましょう。                                     |
|                            | 子どもを注意する際に、「だめよ!」と言って子どもの手を叩く。  | <input type="checkbox"/> していない<br><input type="checkbox"/> している (したことがある) | 叩くという行為は虐待です。また、保育者の「叩く」という行動を子どもが真似てしまうこともあります。暴力的な行動によって指示に従わせることはやめましょう。                       |
| 一人ひとりの子どもの育ちや家庭環境を考慮しないかわり | 登園が遅い、服が汚れている、お風呂に入っていない、提出物の遅れなどの際に、子どもに「また〇〇君のお母さん忘れたの。いつも忘れて困るね。」や「昨日お風呂に入れてもらわなかったの。」など否定的な言葉がけをする。 | <input type="checkbox"/> していない<br><input type="checkbox"/> している (したことがある) | 子どもや家庭の置かれている現状はさまざまです。保護者を否定されることで、子どもは自身の存在も否定されている気持ちになります。保護者を否定するようなことは、子どもに対して伝えないようにしましょう。 |
| 差別的なかわり                    | クラス全員で帰りの支度をしている時に、なかなかできない子どもに、「〇〇ちゃんは早くできないのね、だめな子になっちゃうよ」と言う。  | <input type="checkbox"/> していない<br><input type="checkbox"/> している (したことがある) | 子どもの心を傷つける言葉づかいは、子どもの人格を否定する行為です。また、他の子どもたちの前での保育者の悪意ある発言は、子ども同士の「いじめ」につながることもあります。               |

※本冊子は全国保育士会が作成した「保育所・認定こども園等における人権擁護のためのセルフチェックリスト～「子どもを尊重する保育」のために～」の一部抜粋しつつ、保育の中で起こりうる事例を盛り込んで作成をしています。チェックリストは全国保育士会のHPに全文が記載されています。下記URLからぜひダウンロードして、園内での研修などに利用してください。

全国保育士会URL: <https://www.z-hoikushikai.com/>  
(チェックリストは、全国保育士会HP内「パンフレット・報告書・チラシ」ページに掲載されています。)

# よりよい保育のための チェックリスト ～人権擁護のために～



「目標を達成するには、これをやらしてもらわないといけない」

「今これをやらしてもらわないと困る」といった思いから、

保育者主体の保育になることはありませんか？

子どもに対する熱い思い、日々の忙しさなど、保育者主体になってしまう背景は

様々かもしれませんが、保育の主体は子どもです。

「これをやりたくなるようにするにはどうすればいいか」というように、

常に「子どもの目線」を考えて保育を行いましょう。

保育の専門職である保育士・保育教諭の皆さまが、保育を行う上で重要な「子どもを尊重する」ことや「子どもの人権擁護」についてあらためて意識を高め、自らの保育を振り返っていただくことを目的にこのチェックリストを作成しました。

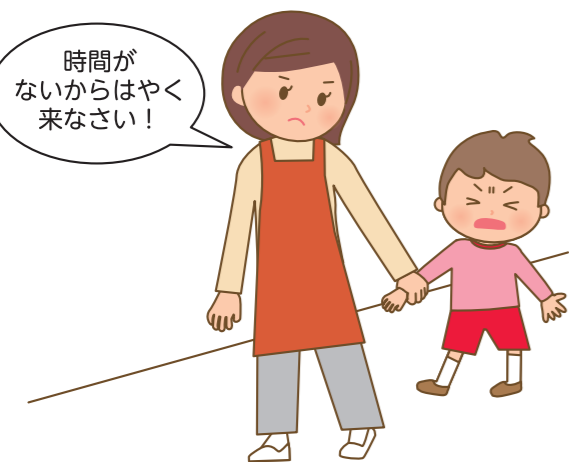
また、自らが意識せずに「子どもを置き去りにした保育」や「保育者の都合で進める保育」を行っていないかの自己点検や、園内のミーティング・研修の場などで活用し、さらなる保育の質の向上を目指しましょう。

保育士として歩み始めた人はもちろん、保育士として経験豊かな人も、一度基本を見直す材料としてこのチェックリストを活用してみましょう。



## 子どもの動きを促すとき・止める時のポイント

**×** わつてはダメ!  
子どもの腕や、手首をつかんで、引っ張ったりしていませんか?



### アドバイス

子どもの動きを無理に止めたり、動かしたりするために腕を引っ張って止めることは、脱臼等の怪我をする恐れがある、不適切な保育です。子どもの意思で活動することが大切です。

例えば

- ・走り回っている子に対しては「こっちであそぼう」と誘ったり、「走るときはここまでにしましょうね」とルールを示してあげましょう。
- ・散歩に行きたがらない子には「公園に行ったら〇〇遊びができるよ」等と見通しを伝えましょう。

また、友だちをたたいてしまった子に対して、痛みを教えるためにたたくことも、不適切な保育です。子ども同士のトラブルの際は、双方の気持ちに寄り添いしっかり言い分を聞き、仲立ちをしましょう。

## 言葉かけのポイント

**×** わつてはダメ!  
子どもたちに対して「片づけなさい!」や「何回いったらわかるの!」など、強い口調や命令口調を使っていますか?



このような子どもたちが嫌がることを引き合いに出していませんか?

### アドバイス

怖がらせることで言うことを聞かせようとしたり、保育者の思いどおりに動かそうとするのではなく、どうしたらいいのか、子どもと一緒に考えてみましょう。例えば、お片付けなどは「お人形は、お人形のおうちに連れて行こうね」などと片づける場所をわかりやすく伝えたり、一緒に片付けたりしましょう。声量も、必要以上に大きな声になっていないか、改めて振り返ってみましょう。

## 排泄について

**×** わつてはダメ!  
あとで漏らしてしまったら大変なので、「出ない」と言っているのに無理に便器に座らせていませんか?



### アドバイス

排泄は個人差があり、無理強い子どもに苦痛を感じさせ、トイレ嫌いになってしまうこともあります。自分で尿意を伝えられるようになった子であればその子の主張を尊重しましょう。漏らしてしまったとしても「だから言ったでしょ!」などと叱らずさげなく、人目につかないところで対応しましょう。

## 食事についてのポイント

### アドバイス

一人ひとりの心身の状態を把握しながら、子どもと一緒に食べられる量を確認していきましょう。また、好き嫌いをなくしたい・たくさん食べてほしい...という思いから、無理やり食べさせたり、「〇〇を食べないと、デザート抜きだよ」と罰則を設けてはいませんか?まずはその子のペースを理解し、援助したり、言葉かけをして食べる意欲を引き出したりしていきましょう。

**×** わつてはダメ!  
「こぼしてしまうから」、「食べる量が少ないから」といった理由で、配膳時に勝手に食事を出す順番や量を決めていますか?



## 子どもへの差別的な扱いについて

**×** わつてはダメ!  
特定の子どもばかりに声をかけていませんか?あるいはそういう同僚を見かけませんか?



### アドバイス

特定の子どもばかりに、極端に声をかけたり、関わったりすることは、差別的なかわりです。「あの子はあの子だけ妙に可愛がっている」などと気になる場合は、チームとして、子どもにも不利益な保育がなされないよう、気になったことはお互いに声をかけあったり、周りの仲間に相談してみましょう。

## 保護者に対する「困ったなあ」について

**×** わつてはダメ!  
「〇〇ちゃんのお母さんはいつもお迎えが遅くて困るよね」「△△ちゃんは洋服がちゃんと用意されてないね」など、子どもの前で保護者への「困ったなあ」を言っていますか?



### アドバイス

どんなに小さい子どもでも、保護者のことを悪く言われていることは感じます。保護者を否定されることで、子どもが自分の存在も否定される気持ちになります。子どもの前では、決して保護者のことを悪く言わないようにしましょう。また、職員間の様子も、子どもたちはよく見えています。たとえば職員間で注意し合う時も、子どもの前ではやめましょう。言葉づかいや声量などが大きすぎないか改めて気を付けましょう。

## 施設で掲げる目標達成について

子どもの健やかな発達を促すために、「卒園するまでに〇〇できるようになる」といった目標を掲げるのはもちろん大切なことです。しかし、それを達成するために、子どもの個々の発達状況や意思を確認しないまま、無理を強いてはいませんか? 体への接触の仕方や、声かけの声量・言葉づかい・本人の人権への配慮、差別的に扱っていないか、改めて確認してみましょう。また、保育所保育指針や幼保連携型認定こども園教育・保育要領の解説においても、保育の計画やカリキュラムは子どもの発達や生活の状況に応じて、柔軟な保育・教育を行うことと示されています。みなさまの施設の計画・カリキュラムはいかがでしょうか?

